

テーマプロジェクト研究

2022年度

担当教員: 鈴木竜太・梶原武久

授業のテーマと目標

プロジェクト方式の教育として、1年次前期にケースプロジェクト研究、後期にこのテーマプロジェクト研究、それと並行して、専門職学位論文作成に係る現代経営学演習を行い、2年次前期には、専門職学位論文の作成に専念することとなります。この一連の research-based educationを通じて、企業の中核的人材が持つべき事業観、人間観、洞察力、行動力、企業家精神を自発的に学習します。ケースプロジェクト研究とテーマプロジェクト研究では、異業種或いは異なった経験を持つ同期生とのグループ学習、経営者等とのインタビューを通じて、グループダイナミクス、論理的構成力、文章力、発表能力についても研鑽することになります。

ケースプロジェクト研究では、テーマ、チーム構成は担当教員が設定して、戦略を構想する能力を養成しました。一方、テーマプロジェクト研究は、ケースプロジェクト研究で学んだグループ研究を遂行するノウハウを基に、学生が自己組織化するチームで、企業経営にインパクトのある課題を自主的に選定し、多角的に検討し、プレゼンテーションを行います。

※なお以下のシラバスは、対面での授業を念頭に置いています。新型コロナウイルスの感染状況によっては変則的な開講に変更することもあります。

教科書

参考書(参考書は必読ではありませんが、ケース分析にはさまざまな方法や考え方がありますので、色々読んでみることをおすすめします)

井上達彦「ブラックスワンの経営学」NTT出版

神戸大学専門職大学院「プレMBAの知的武装」中央経済社

佐藤郁也「ビジネス・リサーチ」東洋経済新報社

高橋広之他「ケースで学ぶケーススタディ」同文館出版

田村正紀「経営事例の質的比較分析:スモールデータで因果を探る」白桃書房

田村正紀「経営事例の物語分析:企業盛衰のダイナミクスとつかむ」白桃書房

ロバート・K・イン「新装版ケース・スタディの方法(第2版)」千倉書房

授業内容の要旨と授業計画

8/6(Sat) 18:50-20:20(I&G授業終了後)

オリエンテーション

8/27(Sat) 18:50-20:20

プロジェクトチーム、研究テーマ、研究課題の発表

10/15(Sat) 8:50-20:20

中間報告会

10/22(Sat) 18:50-20:20

中間報告会を受けてのフィードバックセッション

12/17(Sat) 10:40-12:10

最終報告会に向けてのセッション

1/7(Sat)8:50-18:30

研究成果発表会

成績評価の方法

1月7日に予定している研究成果発表とその後に提出していただく個人内省レポートを評価します。最終評価は研究成果発表50%、個人内省レポート50%で評価します。

個人内省レポートの提出期限および形式は以下の通りです。

提出期限 1/31午後3時

提出方法 Beefによる提出

形式 PDF形式による提出 名前・学籍番号・チーム名を明記すること 分量は問いません

テーマプロジェクト研究で要求すること

プロジェクトチーム：6人を目安に自己編成すること。5人或いは7人によるチームも可とします。

研究課題：研究課題とは、研究で明らかにする問いのことです。単に、現状がどうなっているかというような調査研究は好ましくなく、何故、如何にというような問いを課題としてほしいと考えます。何より、研究のための研究というようなものではなく、企業経営にインパクトのある課題を設定してください。また、職務上直面する課題を教室に持ち寄って、この授業の参加者が一緒になって考えることを目標としていることを勘案すると、チームメンバーにとってさえも事前知識のない課題は相応しくなく、また、最終的な達成度も低くなると考えられます。

主要文献：研究課題に関連する主要文献(論文・書籍)を3つ以上見つけ、参考にしてください。

研究方法：最終的に2つ以上の企業について、インタビューを中心としたケーススタディを行ってください。インタビュー結果、2次データ、既存研究を論拠として、研究課題の解決や因果関係の解明を目指すこととなりますが、説得力のある議論を展開するためにはケース自体にある程度語らせることが必要となります。先行研究をもとに仮説を設定して、それを支持するようなケースを紹介するだけであれば、時間をかけてやる意味はありません。むしろ、先行研究や通説を十分理解した上で、それらを覆すようなケースを選定し、その一見非合理とも思えるような因果関係を深掘りしてください。その実務に潜む「もう一つの」「新しい」論理を探り出してほしいと思っています。

中間発表：中間発表までには、ケースインタビューを少なくとも1つは終えておいてください。

最終発表：チームメンバーにとっての意義を示すことももちろん重要ですが、聞き手の関心を呼ぶような議論の展開、プレゼンテーションを心がけてください。テーマプロジェクト研究は、ケーススタディですので、厳密さよりは、説得力と論理性が求められています。

授業内容

Day1 (8/6(Sat) 18:50-20:20): オリエンテーション

このセッションでは、イントロダクションとしてテーマプロジェクト研究の狙いや進め方について説明をしたのち、研究計画の立て方、質的調査(特にケース)の考え方、理論の用い方などについてレクチャーしていきます。後半では、プロジェクトメンバーでプロジェクトを進めてもらいます。この日の授業時間中にチーム編成と暫定的な研究課題をブレイクアップして決定してもらいます。各学生は、チーム編成と研究課題について、授業に来る前に最終決定しておく必要はありませんが、この日のうちに決定できるように事前に準備をしておいてください。

Day2 (8/27(Sat) 18:50-20:20): プロジェクトチームの発表、承認

このセッションでは、各チームに研究テーマと研究課題について発表してもらいます。授業時間内には簡単なコメントしかできませんが、各チームがどのようなテーマを取り上げたのか、お互いで確認し、自分たちのプロジェクトのスタート地点をしっかりと決めていきましょう。

研究テーマと研究課題に関してプレゼン資料を作成してきてください。チーム毎に、研究テーマ、研究課題、切り口と考えている点とそれに関わる理論や概念、フレームワーク、ケース企業名を2ページ程度で記述したものを提出し、発表していただきます。プレゼンの持ち時間は各チームおよそ5分です。研究テーマと中心に置く研究課題がなぜ意義があり、興味深いのか、クリティカルであるのかを意識しながら、自分たちのテーマプロジェクトのテーマの良さを語ってください。

Day3 (10/15(Sat) 8:50-20:20): 中間報告会

各チームに中間報告をしてもらいます。ケース分析を少なくとも1つ終えた上で臨んでください。中間報告では、研究テーマと研究課題に基づきケースから分かってきたことと今後の計画について発表してください。発表時間は20分以内とします。

Day4 (10/22(Sat) 18:50-20:20): 中間報告会を受けてのフィードバックセッション

各チームは中間報告会の振り返りと、今後の計画、可能であれば予想される結論(仮説に対する検証結果)および含意について発表してもらいます。プレゼンの持ち時間は各チームおよそ5分で

す。

Day5 (12/17(Sat) 10:40-12:10) : 中間報告会を受けてのフィードバックセッション

各チームは、授業開始時に、研究テーマ、研究課題、仮説、すべてのケースの概要、結論、含意について4ページ以内で記述したものを提出してください。この日の時間については、各チームで、自由に使ってください。個人的な相談があるチームは12月12日(月)までに私(梶原)にメールでアポを取るようになしてください。

Day6 (1/7(Sat)8:50-18:30) : 研究成果発表会

研究成果発表会を行います。発表時間は20分とします。